

ネイティブ微生物キサンチンオキシダーゼ

Cat. No. NATE-0733

Lot. No. (See product label)

はじめに

○明

キサンチンオキシダーゼは、細胞質に存在するモリブデンを含む酵素であり、フラボノイドによって強く抑制される可能性があります。これは、いくつかの物、ならびにプリンとピリミジンの代謝において重要な役割を果たします。また、反性酸素種の生物学的な源としても知られています。キサンチンオキシダーゼは、キサンチンの酸化に続いてスーパーオキシドアニオンを生成することによって、シトクロムcの還元に関与していることが示されています。これらのフリーラジカルは、シトクロムcを還元する責任があります。

用途

この酵素は、プリンヌクレオシドホスホリラーゼおよびウリカーゼと組み合わせることで、無機リン、5'-ヌクレオチダーゼおよびアデノシンデアミナーゼの酵素的測定に役立ちます。

別名

キサンチンオキシダーゼ; XO; キサンチンオキシレダクター; EC 1.17.3.2; 9002-17-9; XOD; キサンチン:酸素オキシレダクター; ヒポキサンチンオキシダーゼ; ヒポキサンチン:酸素オキシレダクター; シャルディン酵素; ヒポキサンチン-キサンチンオキシダーゼ; キサンチン:O₂オキシレダクター; キサンチン:キサンチンオキシダーゼ

製品情報

由来

微生物の

形態

BSAとグルタミン酸ナトリウムを安定剤として含む凍結乾燥粉末

EC番号

EC 1.17.3.2.

CAS登録番号

9002-17-9

分子量

mol wt ~160 kDa

活性

> 7 ユニット /mg 固体

pH安定性

pH 6.5-9.0 (25°C, 15時間)

最適pH

7.5-8.0

熱安定性

55°C未 (pH 8.0、30分)

最適温度

65°C

阻害剤

還元剤、Hg++、Ag+、MIA

単位定義

1ユニットは、pH 7.5、25°Cで1分あたり1.0 μmoleのキサンチンを尿酸に換します。基質としてヒポキサンチンを使用した場合、約50%の活性が得られます。

保管・発送情報

保存方法

-20°C